



11号 令和4年8月3日

<学校教育目標>

自ら伸びる ともに伸びる

校長だより(職員編)

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠

「天才って、これなんだよ」

元プロ野球選手でタレントの長島一茂さんが父長嶋茂雄さんのことを「天才ってこれなんだよ。」と思った瞬間を明かしておられましたので、紹介します。

一茂さんが小学3年生まで、父茂雄さんは現役だったので、遠征などでほとんど家にはいなかったそうです。しかし、たまに家にいるときには、キャッチボールはやってくれたそうです。ただし、会話は一切なし。素振りもそばで見ているときはありますが、アドバイスはまずなし。最低でも200スイング、300スイングしてから、やっと一言、ぼそっと、「今のだ!」。そんな父親とのエピソードを紹介していました。

話には、まだ続きがあって、茂雄氏は同じことを愛弟子のメジャーリーガー松井秀喜氏にも行っていたそうです。ここからは、一茂氏の言葉で紹介します。

「松井君が巨人からメジャーリーグに行ったときスランプに陥ったんですよ。そのときに海外電話で『松井振ってみろ!』と親父が言って、松井君のお付きの人がスイングの近くに受話器を持っていった。それが300スイングを超えたときに親父が『それだ!』って言った。それは何を聞いていたかっていうと、バットが空気を切り裂く音が変わったって。見えていないんだよ。でも『今のそのフォームを忘れるな。』って。で、松井君が次の日3本ホームランを打ったんです。」

あのソフトバンク球団会長の王貞治さんも、中日、阪神で活躍した同じ一本足打法の大豊泰昭さんに同じような指導をしていたそうで、一茂さん曰く、「天才ってこれなんだよ。」というお話です。

このお話を聞いて、私が感じたことは……。確かに長島さんも王さんも間違いなく天才でしょう。でも、天才のという言葉の前に、「努力の」という言葉も付くのではないかと思います。自らも人並み外れた努力を積み重ねてきたからこそ、たどり着けた境地のように思えてなりません。我々も職は違えど、教職の道で同じような境地にたどり着けるよう、精進を積み重ねていきたいものです。